

マメ科 *Erythrina variegata* の成分研究

○田中 齊<sup>1</sup>, 平田 美由紀<sup>1</sup>, 浅井 雄介<sup>1</sup>, 佐藤 勝<sup>2</sup>, 山口 良三<sup>2</sup>, 田中 伸幸<sup>3</sup>,  
田中 稔幸<sup>4</sup>(<sup>1</sup>名城大薬, <sup>2</sup>朝日大歯, <sup>3</sup>高知県立牧野植物園, <sup>4</sup>岐阜薬大)

【目的】マメ科 *Erythrina* 属植物は約 110 種あり、その成分研究は最近、抗菌活性、抗ウィルス活性、エストロゲン様活性、抗炎症作用の本体がイソフラボノイド類であることが判明してから、本植物のフェノール性化合物の探索が盛んに行われるようになった。*Erythrina variegata* は熱帯、亜熱帯に広く分布し、インド、インドネシア、中国にて民間薬として用いられている。その花はマメ科に特徴的な蝶形花冠で、色は深紅色であるため、観賞用として庭木、街路樹に植樹されている。また本植物は環境に順応しやすく、作物の風除けおよび家畜の餌として用いられている。先に、我々はインドネシア産、台湾産<sup>1)</sup>、日本産<sup>2)</sup>の本植物の検索を行い、イソフラボン類 (eryvarins V, W) を単離しそれらの構造と抗菌活性を報告した<sup>1)</sup>。今回、ミャンマー産の本植物の樹皮の検索を行い、2 種のフラボノイド (erythribyssin K, abyssinone-1) を単離したので報告する。

【実験および結果】ミャンマーにて採取した *Erythrina variegata* の樹皮部をアセトンで抽出した。その抽出エキスをクロロホルムで抽出し、クロロホルム可溶部をシリカゲルクロマトで繰り返し分離、精製した結果、2 種のフラボノイド erythribyssin K, abyssinone-1 を単離した。これらのフラボノイドは *Erythrina variegata* から初めて単離した化合物である。本化合物の抗菌活性については現在検討中である。

【文献】1) H. Tanaka et al, Chemistry & Biodiversity, 8, 476-482 (2011).

2) 田中ら、日本薬学会第 131 年会(静岡)講演要旨集 2, p.236 (2011).